

市立高等学校・専門学校改革基本計画（必由館高等学校編）素案について

第1章 市立高等学校・専門学校改革基本計画の策定について

1. 改革の趣旨

- ・高等学校においては最後の学科改編から約 20 年、専門学校については最後の校名変更から約 30 年が経過し、現在の社会及び市民のニーズに応じた新たな時代を見据えた教育内容の見直しが求められている。

2. 計画の位置づけ

- ・「市立高等学校・専門学校改革基本計画（必由館高等学校編）」は、「熊本市第 7 次総合計画」（令和元年度中間見直し）及び「熊本市教育大綱（熊本市教育振興基本計画）」（令和 2 年度改訂）の理念を踏まえて策定するもの。

第2章 市立高等学校・専門学校の現状と課題について

必由館高等学校

- ・現状：明治 44 年（1911 年）開校、平成 13 年（2001 年）に校名変更学科改編を行い普通科普通、普通科国際コース、普通科芸術コース、普通科服飾デザインコースを設置し、特色ある教育活動を実施
部活動は文武両面で活躍 地元の私立大学を中心に約 9 割の生徒が進学
- ・課題：学習意欲や学力に生徒間の差が見られ、主体的に学ぶ意欲や態度の育成が必要

第3章 市立高等学校・専門学校の改革方針

1 改革の基本理念

- ・自ら考え、主体的に行動し、多様な人々と協働しながら、自らの人生とよりよい社会を創造する力を育てる学校へ改革する。

2 3校に共通する三つの特色

(1) 「市立ならではの」特色ある学校

①学科・設置形態	・必由館高校に「新たな普通教育を主とする学科」を設置し、教科等横断的・探究的な学びを充実し、幅広い進路選択に対応する教育課程を編成する。 ・千原台高校に、「情報ビジネス探究科」、「健康スポーツ探究科」を設置する。 ・専門学校に「キャリア創造学科」を設置する。
②少人数クラス編制	・高校は、きめ細かな指導・支援を実施するため、少人数学級編制を実施
③学校間連携	・市立高校 2 校間、市立高校と市立専門学校の連携強化
④市が所管する地域資源や人的ネットワークの活用	・市役所の全面的な協力体制のもと、所管する全ての施設・機関との連携を可能とする市立ならではの教科等横断的・探究的学習 ・市のまちづくりや環境、福祉、防災・減災、創業関連事業と連携するなどし、持続可能な社会の創り手としての資質・能力を育む教育を実施
⑤多様な生徒受け入れ	・多様な個性や才能を持つ生徒や意欲ある生徒を受け入れるため、市独自の選抜方法へ変更 ・個別学習教材の導入や民間教育資源との提携等による個に応じた学びの実現 ・校内での支援体制強化（障がいのある生徒等への指導・支援の拡充、オンライン教育の推進、外国にルーツを持つ生徒への支援、LGBTQ 等の性的マイノリティの生徒への支援など）
⑥特別活動の充実	・生徒会組織や活動内容を再構成し、生徒による自治を推進 ・部活動については、新たな学校の実態に応じたあり方を検討し振興を図る ・特別活動等全般において、企画・運営・検証に生徒が主体的に関わるようにする
⑦学校改革に資する人材の登用	・人事交流、外部からの登用等により、学校改革に資する人材を校長、教頭、コーディネーター、アドバイザー等として登用することを検討

(2) 探究的な学びを推進し、社会と積極的にかかわっていく学校

①市・企業・大学等と連携した課題探究型学習	・市役所や市の施設（まちづくりセンターや公民館等）におけるフィールドワーク ・ベンチャー企業の経営者等を講師招聘した講話 ・大学や地域の企業との連携による課題探究型学習
②SDGs を中心とした、持続可能な社会づくりを目指す探究学習を実施	・まちづくりや環境、福祉などの諸問題についての探究学習 ・熊本地震からの復興や防災・減災をテーマとした地域課題に関する探究学習
③個別の興味関心や課題意識等に応じた、「自分事」となる探究課題の設定	・生徒が希望する進路に関する探究や大学、企業等の調査 ・生徒の興味や関心に応じた課題追究的な学習 ・修学旅行先やプログラムについて、探究活動の内容と紐づけ生徒が企画するなど、学校行事と関連付けた学習

(3) 生徒が主体的に学校づくりに参画する学校

①生徒主体の探究的な学びの実現	・探究的な学びの授業づくりに生徒が参画する機会を設ける ・市役所や企業・地域団体・大学等との連携構築段階から生徒が参画
②学校運営への生徒の参画	・校則の策定や見直しに生徒が参画する ・生徒が職員と協議、提案する機会を設ける
③生徒の主体性を尊重する 教員の専門性向上	・生徒の考える力を引き出すような授業への改善 ・生徒をファシリテートできる資質・能力の育成

第4章 必由館高等学校における改革方針

目指すべき学校像（スクール・ミッション）

学校の存在意義や期待される社会的役割、目指すべき学校像を以下のような内容（例）で再定義する。

熊本市立必由館高等学校は、熊本市の未来を拓き、健康で心豊かな人生と幸せな社会を生み出す、次のような資質・能力を有したリーダーを育成します。

- ・多様な価値観を尊重し、新たな価値を創造する力
- ・社会に関する理解を深め、地域の課題や魅力を見出す力
- ・分野横断的に課題を分析し、論理立てて表現する力
- ・自己の興味・関心に応じて、生涯にわたって学び続ける力

この目的のため、「市立ならでは」の次のような取組を行います。

- ・多様な生徒一人ひとりが主体的かつ協働的に学校づくりに参画する機会の拡充
- ・市役所、市立専門学校、大学、企業等と連携・協働した課題探究型学習の推進
- ・文理融合等の教科等横断的な課題探究型学習の推進
- ・芸術・ライフデザインに関する実践的・体験的な教育の推進

課程・概要

- ・国の普通科改革において、令和4年度（2022年度）から設置可能となった「新たな普通教育を主とする学科」を設置
- ・新学科・コースの設置形態・名称は、学校外、とりわけ高等学校への進学を希望する中学生が当該学科における教育内容を想起しうるものとする。学級数は9学級とし、少人数クラス編制を実施する。
- ・改編の効果を検証し、状況に応じて見直していく仕組みを構築。学校内部・事務局の改革推進体制構築も検討する。
- ・附属中学校の設置については、新たな必由館高等学校の学校像が定まったうえで検討する。

〈設置例〉 募集定員 305 名 ※学科・コース名については、今後検討

〈現行〉募集定員 360 名

課程	学科	コース	概要	課程等
全 日 制	文理総合探究科 (仮称)	文理コース(仮称) (7学級×35名=245名)	教科等横断的・探究的な学びを通して、将来に渡って有用となる幅広い知識とものの見方・考え方を身につけ、自己の適性や能力に応じた進路目標を達成する。	全日制 普通科 ・普通 (6学級×40名=240名)
		芸術コース(仮称) (音楽・美術・書道) (1学級×30名=30名)	文化・芸術に関連した課題探究型学習を中心に地域と連携した学習や研修、社会共創に関わるグローバルな学習を行う。	・国際コース (1学級×40名=40名)
		生活デザインコース(仮称) (1学級×30名=30名)	社会に必要な質の高い豊かさの実現に向け、新しい生活スタイルの在り方をデザインできる総合的な知識・感性・実践力を養う。	・芸術コース (1学級×40名=40名)
				・服飾デザインコース (1学級×40名=40名)

第5章 スケジュール（予定）

9月	第3回定例会 基本計画（素案）【報告】	パブリックコメント（～10月）
11月	定例教育委員会会議 基本計画（案）【報告】	
12月	第4回定例会 基本計画（案）【報告】	定例教育委員会会議 基本計画（案）【議決】

令和6年4月 開校（附属中学校は継続検討）